矢板の工場紹介

市内には技術力や業界シェアが高い工場が多く存在します。よく名前を聞く会社だけど仕事内容・技術力は知らない…なんてことはありませんか？皆さんが知っているようで知らない市内工場の魅力をお伝えします！

「食と笑顔、未来へつなぐ架け橋に」が経営理念　株式会社 壮関

矢板南産業団地で水産加工品、農産加工品を製造・販売し、素材菓子【※文末参照】の分野では日本一の生産規模を誇る（株）壮関の板山健一社長と福田朋広本部長にお話を伺いました。

●経営理念について

当社は、社員が働きやすい会社を目指しながら、より多くのお客様、社員とその家族が笑顔になれるよう努力しています。経営理念の「食と笑顔、未来へつなぐ架け橋に」は全社員から公募した思いをつないだものです。

また、元気のある明るい会社、人を大切にする企業を目指しています。

●本社を矢板に移転したのは

横浜市で貿易業を創業し、その後、おつまみとして漬物の販売を開始し、素材菓子の業績拡大に伴い、喜連川に工場を新設しました。しかし、手狭になったため、さくら市の工業団地に展開することを検討していましたが、平成十四年十二月に矢板南産業団地を借地で利用することが可能となったため、初期投資が大幅に軽減できることから、矢板に本社を移しました。その後、土地を購入しました。

●会社のこだわり

壮関は、創業以来徹底した品質管理と地域振興を通した社会貢献にこだわりをもって事業を展開しています。

品質管理の徹底は、国際的な食品の品質管理手法のHACCP（ハサップ）の導入をはじめ、工場内部の安全や衛生管理は、もちろん、従業員の健康チェックや衛生指導を徹底管理し、安心・安全な商品の提供を最重要課題として努力を重ねています。

社会貢献は、東日本大震災で甚大な被害に見舞われた東北地方で長年「茎わかめ」の産地としてお世話になっている三陸地区の復興支援として、岩手県大槌町に工場を新設しました。

また、栃木県内ではプロスポーツチームの支援や宇都宮市の大谷地区・清原地区の農家の方と芋栽培を契約し、最近では、矢板産の芋も干し芋事業に使用するなど、地元との共存を図っています。今後も地元の方たちとの共同開発を進めていくつもりです。

●社員数は

全社で約三百人の従業員がいます。そのうちの約二百人が矢板にある本社、本社工場で勤務しています。市内に居住の方は約九十五人で、さらにそのうち三十四人は外国人実習制度により来日した人たちで技術研修のため、当社で一緒に働いています。

●生産品種は

約二百種以上あります。茎わかめを初めてお菓子として発売した「シャキシャキ茎わかめ」、ひとつひとつ丁寧に手割りし、種を抜いた「かりかり梅」やお菓子感覚で食べられる「干し芋」が人気商品です。

●主要な取り扱い店舗

全国のスーパーやコンビニエンスストア、ドラッグストアなどで取り扱っていただいています。他にはさくら市の「道の駅きつれがわ」でも扱ってもらっています。

※素材菓子とは

素材の形状を保っているもの、あるいは素材の風味を残すため、加工度が低く、調味液が無いものなどで、スナック感覚で食べられる商品が素材菓子と分類されています。

芋、トウモロコシなどの農産物やわかめ、めかぶなどの水産物を原料にしたものが対象となります。

（T・M）

茎わかめ自動化ライン

●問い合わせ
株式会社 壮関
住所：こぶし台四番地一
電話：（四八）三三〇一